

日本語母語話者の英語論証文に見られる構成上の問題点：その可視化と教育的効果

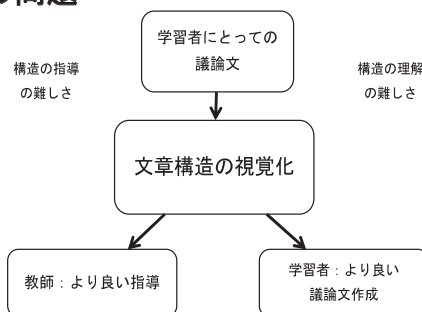


全学共通教育推進機構 准教授 坂本 輝世
研究分野：外国語教育論、ライティング教育

概要：日本語を母語とする学習者が英語で議論をするときに、しばしば、論理的な一貫性や結束性の弱さが指摘されています。それは何が原因なのか、学習者にとってどのような気づきが必要なのか、を研究しています。

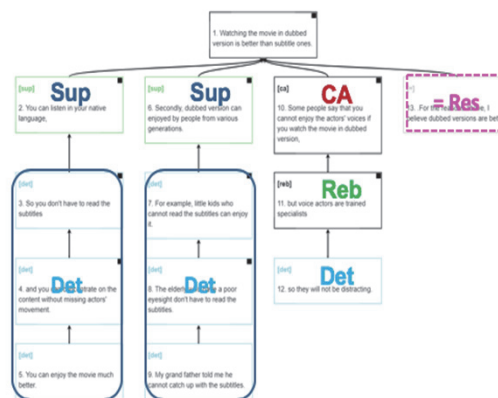
■英語ライティング学習における「構成・組織化」の問題

日本語母語話者である英語学習者の書く議論文において自分の立ち位置をはっきりさせなかったり、議論の一貫性に欠けたりする傾向が指摘されてきました。しかも、文法や語法に比べると、Organizationは指導が難しく、説明を受けてもなかなか学習者に理解されにくいいため、様々な介入を行ってもOrganizationの評価の改善は容易でない、ということがこれまでの研究で明らかになっています。そこで、学習者の書いた議論文を図式化し、視覚的に自分の書いたテキストを俯瞰することで、より良い指導と学習が可能になるのではないか、という仮説を立てました。



■ 樹状図による文と文の繋がりへの気づき

私の研究は、学習者の書いた英語パラグラフの文の配列を注釈ツールによって図式化することで、英語の議論文として不適切な文の流れを明示し、学習者の理解を助け、ひいては、注釈ツールの力を借りなくても学習者が文を適切に配列することができるようになるかどうかを、実証的に確かめようとするものです。



樹状図の一例

■ 他者との対話を意識したライティング

また、日本語と英語のいずれにおいても、「議論する」という視点からライティングを学んだ経験が少ないことも議論文作成が難しい要因ではないかと考えられます。「クリティカルな分析」に基づき「立場を取る」ための演習などを行い、それによって、他者（そして自分）との対話として議論を行い、他者の声を取り入れつつ自分の声を作り上げていくことができるようになるかどうか、その過程を観察し分析する質的研究も取り入れています。

■ SDGsとのかかわり

英語を日本語に、また日本語を英語に置き換えるだけなら、機械翻訳で事足ります。しかし、それぞれの言語がどのような論理構造を前提とし、どのようなスタイルを心地よく感じるか、という違いに気づかなければ、お互いの他者性は理解できません。迂遠なようですが、対立の解消が容易でない問題（例えばジェンダー平等、不平等の是正など）について考えるとき、言葉そのものが様々な対立する視点と声によって成り立っていることを知ることは重要であろうと考えます。